

2022年のスーパーフォーミュラが遂に開幕！  
 第2戦で小林可夢偉が熱いバトルの末ポイント獲得  
 2022 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦/第2戦 レポート

開催日程	2022年4月9日(土) / 10日(日)	開催場所	富士スピードウェイ(4,563km)
大会名称	2022 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第1戦/第2戦 (各41周 / 参加台数: 21台)		
天候 / 気温	4月9日(土) 晴れ / 16度→23度 10日(日) 晴れ / 21度→23度		
観客動員数	4月9日(土): 10,300人	10日(日): 10,700人	計 21,000人(主催者発表)

2022年のスーパーフォーミュラが富士スピードウェイで幕を開けた。今シーズンは予選と決勝が1日で行われる「1大会2レース制」のレースが3大会あり、昨年から3戦増えた全10戦で争われる。

国内トップフォーミュラ参戦13年目となる今季、KCMGは株式会社アオイ様が展開する「Kids com」をメインパートナーに迎え、昨年までのKCMGブルーを基調としたマシンのカラーリングを一新。まったく新しいコンセプトとなるグリーン&イエローを配したデザインで大きな注目を集めた。KCMGは今シーズンも松田次生監督の指揮のもと、7色のカラフルな色をあしらった「Kids com」ロゴとともに、小林可夢偉、国本雄資の不動のコンビでシリーズチャンピオンを目指す。

今大会は2レース制で、土曜日に第1戦、日曜日に第2戦が開催されるため、金曜日の14時10分から1時間半の専有走行が行われた。3月末に実施された合同テストは季節外れの降雪に見舞われ、十分な走り込みができなかったため、この専有走行は重要な走行となった。KCMGもセットアップ作業を進めたが今一つ手応えを感じることができず、小林が19番手(1' 22.896)、国本が17番手(1' 22.600)で走行を終えた。



【第1戦 予選】

天気：晴れ / 気温：16度 / 路面コンディション：ドライ

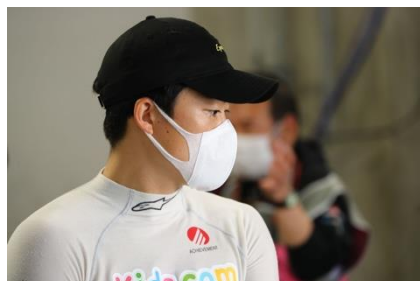
#7 小林可夢偉 Q1B組：10位 / 1' 22.776

#18 国本雄資 Q1A組：10位 / 1' 22.675

4月9日(土)、第1戦の予選から走行開始。春らしい好天に恵まれ、路面はドライコンディション。だが、前日以上に風が強く、メインストレートでの風向きも向かい風から追い風へと変わっている。9時30分、10分間で争われるQ1A組がスタートし、KCMGからは国本が出走した。国本は計測4周目にアタックを試みたがうまくまとめることができず、1' 22.675(10番手)に留まり、Q2進出は叶わなかった。

5分間のインターバルを経て、Q1B組が始まったのは9時45分。小林は走り出しからマシンに違和感があったが原因はわからず、不安を抱えたままのアタックとなった。タイムは思うように伸びず、小林も10番手(1' 22.776)でQ1敗退となった。

予選の結果、小林は20番グリッド、国本は19番グリッドからのスタートが決まり、KCMGにとって非常に苦しい予選となった。



【第1戦 決勝】

天気：晴れ / 気温：23度 / 路面コンディション：ドライ

#7 小林可夢偉 18位 / #18 国本雄資 13位

午前中に行われた予選に続き、14時30分からレーススタート。後方グリッドからスタートした小林と国本は周回を重ねるごとにポジションを上げていく。

他車のピットインのタイミングもあり、一時8番手まで浮上した小林だが、17周目にドライブスルーペナルティを受け、11番手に後退。このペナルティはスタート時にマシンが動いてしまったためである。その後、レース終盤までタイヤ交換を引っ張る作戦を取った小林は31周目にピットイン。KCMGのクルーはミスなくコースへと送り出したが、ペナルティの影響は大きく18番手でコースに復帰した。予選時に発生したマシントラブルの症状も改善されておらず、思うような走りができない小林は18位でチェッカーを受けた。

一方、国本は11周目にタイヤ交換を済ませ、17番手でコースに戻った。上位進出を目指して懸命に周回を重ねるが、国本もマシンバランスに悩まされながらの走行となり、13位でレースを終えた。

残念ながら開幕戦をノーポイントで終えたKCMG。時間がない中でも最善を尽くし、翌日の第2戦では2台揃ってのポイント獲得を目指す。

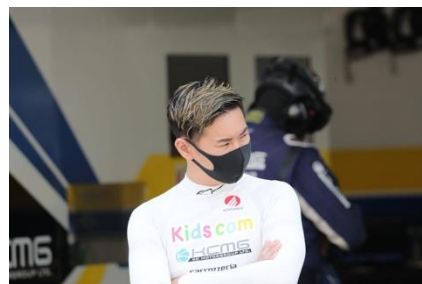


【第2戦 予選】

天気： 晴れ / 気温： 21度 / 路面コンディション： ドライ

#7	小林可夢偉	Q1B組： 5位 / 1' 22.279	Q2： 6位 / 1' 21.842
#18	国本雄資	Q1A組： 10位 / 1' 22.635	

4月10日(日)、開幕戦から一夜明け、早くも第2戦を迎えた。決勝を前に10時25分から予選Q1A組がスタート。前日吹いていた強い風は収まり、風向きも変わったことから、国本は有利に進むことを想定してアタックに挑んだ。前日より0.04秒速いタイムをマークしたが今一つ結果には結び付かず、10番手(1' 22.635)でノックアウトとなった。



10時40分、Q1B組がスタート。前日のマシントラブルが解消された小林は10台の出走車両の中で真っ先にアタックラップに入り、1分22秒前半を連発。最終的には1' 22.279までタイムを伸ばし、5番手で今シーズン初のQ2進出を果たした。



10分間のインターバルを経て、いよいよポールポジションを決めるQ2が11時から始まった。小林は念入りにタイヤを温めると、計測3周目にアタック開始。Q1の勢いそのままに0.4秒も速い1' 21.842を叩き出し、6番グリッドを獲得した。



残念ながらQ1敗退となった国本は20番グリッドから上位フィニッシュを目指す。



【第2戦 決勝】

天気： 晴れ / 気温： 23度 / 路面コンディション： ドライ

#7 小林可夢偉 9位 / #18 国本雄資 15位

富士 2 連戦最後のレースも青空が広がり、初夏を思わせる天候の中で行われた。14時30分にスタートが切られると、小林は好スタートを決め、1コーナーで#53 佐藤選手をオーバーテイク。その後のコカ・コーラコーナーでも#20 平川選手をかわすと、4 番手までポジションを上げた。11 周目、タイヤ交換のためにピットイン。右フロントタイヤの交換に少し手間取った上にファストレーンを走ってくる後続のマシンの通過を待たなければならなかったため、小林はポジションを落としてしまった。第 2 スティントでは#15 笹原選手と激しいバトルを展開する。笹原選手が幾度も背後から迫ってくるが、ここは小林がベテランの意地を見せ、巧みにブロック。勝負の軍配は小林に上がり、9 番手のポジションを守ってチェッカーを受けた。もっと上を目指せただけに悔しさの残るレースとなったが、今シーズン初ポイントをチームにもたらした。

一方、20 番グリッドからスタートした国本は小林の翌周、12 周目にピットイン。タイヤ交換を済ませると、17 番手でコースに復帰した。前日同様、思うような走りができない国本だが必死に前車に食らいつき、周回を重ねていく。だが、なかなかポジションを上げることはできず、15 番手でのチェッカーとなった。



## 【ドライバーコメント】

### #7 小林可夢偉

土曜日の第1戦はグリップ感もなく、ストレートも遅いし、何しても駄目でした。そこにスタートのペナルティもあり、本当になすすべなくという状態でした。しかし、第2戦の朝に壊れている箇所が見つかり、予選は6番手までいくことができました。レースペースはまだ全然良くなく、手応えもない状態だったので、次戦の鈴鹿に向けてチームとしっかり車を作っていきます。

### #18 国本雄資

僕にとって今回の富士ラウンドは非常に厳しく、苦しい週末となりました。第1戦は予選からペースを上げることができず、19番手。そこから追い上げましたが、13位という結果になりました。第2戦は開幕戦よりはクルマのバランスが良くなっていたのですが、ペースを上げることができませんでした。シーズンは始まったばかりなので、今回のデータを検証し、次戦の鈴鹿で逆転できるように、しっかりと準備していきます。チーム一丸となって頑張ります。

## 【監督コメント】

### 松田次生 監督

第1戦は、小林選手はトラブルを抱えており、良いところが見せられなかったという状況でした。国本選手もバランスがうまく合わなくて、予選は苦しい展開でした。

第2戦は、7号車は予選の前にマシンのトラブルが見つかり、改善した結果、予選で6位という結果を得ることができました。ドライバーのタイヤの使い方もとても良く、そこは本当にドライバー冥利に尽きるな、と感じました。18号車はまだ少しドライビングとクルマのセットアップがうまくシンクロしていないという部分で苦しい展開になってしまいました。次の鈴鹿は得意なサーキットなので、しっかりクルマを作って、チーム一丸となって頑張っていきます。次戦の応援もよろしくお願いいたします。